

性的奴隷（慰安婦）制度を容認した橋下徹維新の会共同代表の
発言に厳重に抗議し、歴史修正主義との闘いを強めよう。

2013年5月16日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

橋下徹維新の会共同代表は5月13日、大阪市役所において記者団に対して、「従軍慰安婦は軍の規律を維持するためには、当時必要であった。」「銃弾が雨・あられのごとくに飛び交う中で、命をかけて戦う勇者集団、精神的にたかぶっている集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度が必要なものは明らかだ。」という趣旨の発言をし、沖縄県の普天間基地を視察した際には、米軍司令官に対して「もっと風俗営業を活用してほしい」と述べたことも明らかにしました。この発言に対しては、日本国内はもとより隣の韓国をはじめアジア諸国の政府と国民はもとよりアメリカの政界からも厳しい批判が沸き起こりました。軍の関与を認めた1993年の河野官房長官談話と謝罪の意志を表明した1994年の村山首相談話の見直しの機会をうかがっている安倍首相も「政府・自民党の考えとは異なる」と橋下発言を否定する状況になっています。こうした内外の批判の噴出に対して、橋下氏は「第二次世界大戦当時は世界各国がやっていたことを、なぜ、日本だけが特別な批判を受けるのだ。」と開き直っています。そして、石原慎太郎維新の会共同代表は、こうした橋下氏の言動を擁護しています。

橋下発言の問題の本質は次の二点にあります。

第一は、橋下徹氏は、人間の尊厳と自由、人権、平和と民主主義について、ひとかけらの理解も認識も持ち合わせていない政治家であり、こうした政治家を指導者とする維新の会という政治集団もまた人間の尊厳と自由、人権、平和と民主主義とまったく相容れない集団であるということです。過去の歴史において、特に戦時下において、男性である兵士たちがおのれの性の処理のために女性を「慰安」の道具にしてきたことがあっても、それは人類の歴史の発展過程においては、人類の文明の光に照らすならば許されざる「恥ずべき」側面なのであって、軍隊や権力が兵士の戦意を高揚させるために女性を性処理の道具にするようなことは、人間の尊厳を否定する最も忌むべき人道に反する行為として国際的にも指弾されることなのです。この人類の歴史の許されざる「恥部」を、他国もやっていたのだから、日本軍隊がやっていたことも許されるなどと発言することは、最小限の道德観念も、人権感覚も持ち合わせない人物であるというべきです。橋下氏は沖縄駐留の米軍司令官に対して、「海兵隊員には日本の法律で許されている風俗営業をもっと活用したらよい」などといったとも伝えられていて、国辱発言も極まればというべきでしょう。

第二の問題は、性奴隷に貶（おとし）められた女性たちの日本兵の「慰安婦問題」が特別に深刻な問題であるのは、日本が起こした戦争と植民地支配がアジア諸国に対する侵略戦争を原因としていることを、橋下氏はまったく考慮していないことです。韓国、北朝鮮、中国、フィリピン、その他のアジア諸国などが日本の兵士たちによる現地女性に対する集団的な性的行為の強要、凌辱などを犯し、性奴隷状態に貶めたことを厳しく批判し、謝罪と賠償を求めているのは、この兵士たちの軍隊が彼女たちの祖国を侵略した軍隊であったからです。「慰安婦」制度やその施設の設営に軍が関与した物的証拠がないから国に責任はないなどというのは、彼女たちの数々の証言に反するだけでなく、軍隊の規律を正して道義や倫理にもとる行為をふせぐべき国の責務からいっても、根拠のない暴論です。橋下氏ら維新の会が、日本が侵略戦争を犯し、数々の加害行為をした事実を認めず、侵略戦争肯定の靖国史観に立ち、憲法を改悪して「戦争をする国」に作り変えようとしていることが、このような言説を生み出しているというべきでしょう。

尖閣諸島や竹島など、中国、韓国との領土問題の対立が先鋭化している背景にも、かつての日本の犯した侵略と加害の事実に対する自民党や維新の会の反動的逆流の行動があります。

歴史の事実と正面から向き合い、歴史修正主義を乗り越える私たち国民の運動の強化がいっそう求められています。

私たち治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟は、橋下徹維新の会共同代表の暴論というべき発言に厳重に抗議し、かつての侵略戦争を美化し、侵略と加害の事実を認めない歴史修正主義との闘いをいっそう強めるために奮闘することを表明します。

以上